

別紙6-3 森林土壌等の放射能濃度の簡易測定手順

1 地表面から1mの高さの平均空間線量率から、森林の落葉層及び土壌（以下「森林土壌等」という。）におけるセシウム134及びセシウム137の放射能濃度の合計が1万Bq/kgを下回っていることの判別方法

- 1) 作業の開始前にあらかじめ作業場所の平均空間線量率 A ($\mu\text{Sv/h}$)を測定する。(測定方法は別紙5による。)
- 2) 測定された値 A ($\mu\text{Sv/h}$)を代入して森林土壌等(15cm深)における放射性セシウム濃度を推定する。

$$A(\mu\text{Sv/h}) \times 10,580 - 590 = \text{Cs-134 及び Cs-137 の放射能濃度の合計 (Bq/kg)}$$

(※1, 2)

(例) 平均空間線量率 $1.0 \mu\text{Sv/h}$ における放射性セシウム濃度

$$1.0 \mu\text{Sv/h} \times 10,580 - 590 = 9,990 \text{ Bq/kg (推定値)}$$

早見表 (※3)

平均空間線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	Cs 濃度 (Bq/kg)	平均空間線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	Cs 濃度 (Bq/kg)	平均空間線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	Cs 濃度 (Bq/kg)
0.1	468	1.1	11,048	2.1	21,628
0.2	1,526	1.2	12,106	2.2	22,686
0.3	2,584	1.3	13,164	2.3	23,744
0.4	3,642	1.4	14,222	2.4	24,802
0.5	4,700	1.5	15,280	2.5	25,860
0.6	5,758	1.6	16,338		
0.7	6,816	1.7	17,396		
0.8	7,874	1.8	18,454		
0.9	8,932	1.9	19,512		
1.0	9,990	2.0	20,570		

※1 出典：金子真司「森林の放射性セシウム量と空間線量率の経年変化」『日本土壌肥料学会講演要旨集』第63集，2017.9，p.15

※2 時間の経過に伴い、減衰による換算係数の変動が生じるため、今後この変動が無視できないほど大きくなる前に推定式を見直す予定。

※3 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所の協力を得て林野庁林政部経営課林業労働対策室作成（平成30年1月）